

平成 30 年 12 月の解説（府県天気予報）

【12 月の天候状況】

上旬は、北～西日本は数日の周期で天気に変化しましたが、東日本太平洋側と西日本では 12 月上旬としては晴れた日が極端に少なく、日照時間がかなり少なくなりました。特に西日本太平洋側の日照時間は、1961 年の統計開始以降で最も少なくなりました。3 日は高気圧の縁をまわって湿った空気が流れ込み、鹿児島県阿久根では日降水量が 85.0mm に達して 1939 年の統計開始以来 12 月としては最も多くなるなど、九州では大雨となる所がありました。沖縄・奄美は、前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなりました。4 日は日本海の低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んで全国的に季節外れの暖かさになり、全国の観測点 926 地点のうち 352 地点で 12 月としては最も高い気温を観測したほか、沖縄・奄美や西日本を中心に 66 地点で夏日となりました。東日本と西日本、沖縄・奄美は 6 日頃にかけて気温の高い日が続いたため平均気温がかなり高くなり、沖縄・奄美は 1961 年以降で最も高くなりました。北日本は寒暖の変動が大きく、平均気温は平年並でした。8 日から 10 日にかけては強い寒気が流れ込んだため、北～西日本は低温となったほか、北日本日本海側では大雪になった所もありました。

中旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し、全国的に数日の周期で天気に変化しました。西日本太平洋側は低気圧や前線の影響により、降水量がかなり多く、日照時間がかなり少なくなりました。東日本太平洋側でも降水量がかなり多く、日照時間が少なくなりました。低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置となり、18～19 日は北日本を中心に強い寒気が流れ込み、北海道富良野では 18 日の日降雪量が 41cm に達して 1979 年の統計開始以来 12 月としては最も多くなるなど、北日本では大雪となる所がありました。全国的に、寒気が流れ込んで低温になった日もあった一方、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込むことなどにより顕著な高温になった日もあり、寒暖の変動が大きくなりました。

下旬は、24 日にかけて日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し、全国的に天気は周期変化しました。低気圧や前線の影響で、21 日は西日本太平洋側で、22 日は東日本太平洋側で大雨となった所がありました。また、暖かい空気に覆われて気温の高い日が全国的に多くなりました。26 日以降、冬型の気圧配置が強まって強い寒気が流れ込み、北海道夕張では 30 日に積雪の深さが 137cm に達して 1979 年の統計開始以来 12 月として最も大きくなるなど、27 日から 30 日にかけて北日本日本海側や東日本日本海側を中心に暴風雪や大雪となった所がありました。沖縄・奄美では、26 日は前線の影響で大雨となった所がありました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、東日本と西日本で高く、北日本では平年並でした。月降水量は、北日本日本海側と西日本、沖縄・奄美で多かった一方、北日本太平洋側と東日本では平年並でした。月間日照時間は、北日本日本海側と東日本太平洋側、西日本でかなり少なく、東日本日本海側と沖縄・奄美で少なく、北日本太平洋側では平年並でした。降雪の深さ月合計は東日本太平洋側と西日本太平洋側で少なかった一方、北日本と東日本日本海側では平年並でした。月最深積雪は平年並となった地点が多く、日本海側を中心に大きくなった地点がありました。

【12 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)よりも 2 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値よりも 2 ポイント高い 83%でした。地方別の適中率では、明日予報は東海地方と沖縄地方以外の各地方で例年値以上となり、特に九州北部地方では例年値よりも 8 ポイント高くなりました。明後日予報は関東甲信地方以外の各地方で例年値を上回り、特に九州南部地方では例年値よりも 9 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1 小さい 1.4 で、北陸地方と九州

南部地方以外の各地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.3 で、すべての地方で例年値を下回りました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の天気予報の利用にあたって】

2月は1月と並んで1年で最も気温が低い月です。低気圧が発達しながら日本海から北日本に進むと、低気圧通過の前後で天気が急変することがあります。また、低気圧通過前は強い南よりの風が吹いて気温が急激に上がり、低気圧通過後は強い北よりの風が吹いて気温が急速に下がるなど、気温が大きく変化することがあります。低気圧が日本付近を発達しながら通過する場合、暴風や猛ふぶき、大雪、なだれなどによる災害が発生しやすくなります。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、気象情報に留意して下さい。日々の天気予報を利用して、気温の急激な変化にも気をつけてください。